```
File 351:Derwent WPI 1963-2005/UD, UM &UP=200504
       (c) 2005 Thomson Derwent
*File 351: For more current information, include File 331 in your search.
Enter HELP NEWS 331 for details.
      Set Items Description
          ____
? S PN=JP 55055120
           1 PN=JP 55055120
      S1
? T S1/7
 1/7/1
DIALOG(R) File 351: Derwent WPI
(c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.
002550370
WPI Acc No: 1980-68395C/ 198039
  Polypeptide cpds. - useful for treatment of schizophrenia
Patent Assignee: SANDOZ AG (SANO )
Number of Countries: 001 Number of Patents: 001
Patent Family:
Patent No
              Kind
                     Date
                              Applicat No
                                             Kind
                                                     Date
                                                              Week
                                                             198039 B
JP 55055120
               Α
                   19800422
Priority Applications (No Type Date): GB 7840808 A 19781017
Abstract (Basic): JP 55055120 A
        The polypeptides are of formulae: (a)
    H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH2, (b)
    H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-Gly-NH2, (c)
    H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Ala-Gly-NH2, (d)
    Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Ala-Gly-NH2, (e)
    H-cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-OH, (f)
    H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-OH, (g)
    H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH2, (h)
    H-Gly-Gly-Gly-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-ARg-Gly-NH2 or (i)
    Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH2. The polypeptides are medically
    used for Schizophrenia by nasal spraying process. Further, it is used
    by oral dosage by prescribing it as a capsulated tablet, a sugar coated
    tablet, a suspension remedy or a syrup remedy. The granulated tablet
    may contain a pigment, a perfume agent, a sweetening agent, a binder, a
    lubricating agent, a dispersing agent and a granulating agnet. The
    adjuvant for the capsulated remedy is chosen from lactose, fine
    crystalline cellulose, mannitol, calcium phosphate, starch, alginate salt, polyvinyl-pyrrolidone or magnesium stearate. A wetting agent for
    the liquid suspension remedy or the syrup remedy is chosen from
    polyoxy-ethylene stearate or polyoxy.ethylene-sorbitan monooleate and
    its preservative is chosen from alkyl ester of P-hydroxy, benzoic acid.
```

The typical liquid suspension remedy for Schizophrenia consists of Lys8- vasopressin(50 I.U.), minor amounts of Nipakombin, chlorobutanol andhydrous disodium hydrogen phosphate, anhydrous citric acid, sodium chloride, glycerine, sorbitol and <=1 ml of water.

Derwent Class: B04
International Patent Class (Additional): A61K-037/02
? LOGOFF

(19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭55-55120

§)Int. Cl.³ A 61 K 37/02 識別記号 AAM 庁内整理番号 6617-4C **匈公開** 昭和55年(1980)4月22日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 6 頁)

54ポリペプチド類の新規用途

②)特 願 昭54-24028

敛出 願 昭54(1979) 2 月28日

特許法第30条第1項適用 1978年8月31日発 行「第2回生物精神病学国際会議抜粋ーバル セロナ1978年」に発表

優先権主張 ③1978年10月17日 ③イギリス (GB) ⑤ 140808/78

物発 明 者 アライン・オーデュベール

スイス国バーゼル・ラインフエ ルデル・シユトラーセ25番

70発 明 者 ジヤーン - マール・マグレン フランス国ミルウズ・リユウ・ ダグエル (番地の表示なし)

砂出 願 人 サンド・アクチエンゲゼルシヤフト・スイス国バーゼル(番地の表示なし)

砂代 理 人 弁理士 青山葆 外1名

明 細 曹

1.発明の名称

ポリペプチド類の新規用途

2. 特許請求の範囲

- 1. a) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH2
 - b) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-Gly-NH₂
 - c) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Ala-Gly-NH₂
 - d) MPr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Ala-Gly-NH₂
 - e) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-OH
 - f) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-OH

- g) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH₂
- h) H-Gly-Gly-Gly-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂
- i) Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂
- j) H-Gly-Gly-Gly-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH₂
- k) H-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH₂
- l) H-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂
- m) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-NH₂
- n) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-D-Arg-Gly-NH2

o) cyclo(Leu-Gly)

- q) Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-D-Arg-Gly-NH2
- r) H-Cys-Tyr-Leu-Ser-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH2
- s) H-Leu-Gly-NH2
- t) H-D-Leu-Gly-NH2
- u) H-Lys-Pro-Leu-Gly-OH
- v) Mpr-Tyr-Phe-Leu-Asn-Cys-Pro-D-Arg-Gly-NH₂
- w) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys

および

x) H-Cys-Phe-Phe-Gin-Asn-Cys-Pro-Lys-Gly-NH₂

(3)

- b) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-Gly-NH₂
- c) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Ala-Gly-NH₂
- d) Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Ala-Gly-NH₂
- e) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-OH
- f) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-OH
- g) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH₂
- h) H-Gly-Gly-Gly-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH2
- i) Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂

から選ばれる化合物を活性成分とする精神分裂症 処置剤。

2.活性成分が式:

b) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys-Gly-NH₂

で示される特許請求の範囲第1項記載の処置剤。

3.鼻スプレイの剤形であることを特徴とする特 許請求の範囲第1項記載の処置剤。

4.活性成分が合成されたものである特許請求の 範囲第1項記載の処置剤。

5.式 a) ~ x) のただ一つの化合物が存在する特 許請求の範囲第1項記載の処置剤。

3. 発明の詳細な説明

本発明はポリペプチド類の新規用途に関する。 更に詳細には、本発明は次の化合物のおのおの の新規用途を提供するものである。

a) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂

(4)

- j) H-Gly-Gly-Gly-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH2
- k) H-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-Pro-Leu-Gly-NH2
- l) H-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂
- m) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-NH2
- n) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-D-Arg-Gly-NH₂
- o) cyclo(Leu-Gly)
- p) H-Cys-Tyr-Ile-Gln-Asn-Cys-NH2
- q) Mpr-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-D-Arg-Gly-NH2
- r) H-Cys-Tyr-Leu-Ser-Asn-Cys-Pro-Arg-Gly-NH₂

(5)

特開 昭55-55120(3)

- s) H-Leu-Gly-NH2
- t) H-D-Leu-Gly-NH2
- u) H-Lys-Pro-Leu-Gly-OH
- v) Mpr-Tyr-Phe-Leu-Asn-Cys-Pro-D-Arg-Gly-NH2
- w) H-Cys-Tyr-Phe-Gln-Asn-Cys-Pro-Lys

x) H-Cys-Phe-Phe-Gln-Ayn-Cys-Pro-Lys-Gly-NH2

これらの化合物はすべて既知であり、たとえばイー・シュレーダー(E・S chröder)およびケイ・キュプケ(K・Kübke)によつてザ・ペプチズ(The Peptides)Ⅱ、336頁(1966年)〔アカデミック・プレス(Academic Press)、ニューヨーク〕に開示された方法かまたは類似の方法によつて合成してよい。

本発明化合物は合成形がよい。本発明化合物は (7)

服用量は勿論使用する化合物、投与の仕方および 所望の処置によつて変わる。しかしながら、一般 に約1~50 I.U.の毎日服用を投与した場合に満 足な結果が得られ、約0.15~25 I.U.の一日2 ~6回の分服、または持効性の形で投与するのが よい。

本発明化合物は鼻腔内投与が好ましい。

本発明化合物は、塩基形または酸付加塩形を包含する医薬として許容される塩の形、または錯体の形で投与してよい。このような形は遊離塩基形と同程度の活性を示し、常套の方法で容易に製造される。酸付加塩形の代表的な酸は、ジフルオロ酢酸のような有機酸および塩酸のような鉱酸を包含する。錯体形成に適当な金属は亜鉛を包含する。本発明はまた遊離塩基形または医薬として許容される塩体または希釈剤とからなる医薬組成物を提供するものである。

本発明化合物は、既知の形、たとえば鼻腔スプ レーの形、スプレー、錠剤、粉剤、顆粒剤、カブ 純粋な形、たとえば他のペプチドが無いのが好ま しい。化合物 a) ~ x) の 1 つを他のペプチド a) ~ x) の何れもが無くて個々に用いるのが有利である。

本発明化合物はそれゆえ精神分裂症、特に慢性 精神分裂症の処置に有用である。この使用には、

(8)

セル剤、糖衣錠、懸濁剤、シロップ剤またはエリ キシル剤の形で経口的に、注射用溶液または懸濁 液の形で非経口的に投与してよい。鼻腔スプレー によつて投与するのが好ましい。活性剤の外に、 製剤は医薬としての不活性な有機または無機補薬、 必要ならば充填剤、顆粒化剤、結合剤、滑択剤、 分散剤、溶融剤および保存剤を含有してよい。そ のうえ、医薬製剤は着色料、香料、甘味料など含 有してよい。錠剤およびカプセル剤に適当な補薬 は、たとえばラクトース、後結晶のセルロース、 マニトール、燐酸カルシウム、スターチ、アルギ ン酸塩、ポリビニルピロリドン、ゼラチン、高分 散珪酸、ステアリン酸マグネシウムおよびタルク である。錠剤形成はコートしてもよいがコートし ないのが好ましい。液体投与形の製造に適した懸 **獨化剤は特にセルロース誘導体、トラガカントお** よびアルギン酸塩である。適当な湿潤剤はたとえ ばポリオキシエチレンステアレートおよびポリオ キシエチレンソルビタンモノオレエートである。 さらに、p~ヒドロキシ安息香酸アルキルエステ

ルのような保存剤を用いてもよい。

精神分裂症の処置のための和の組成物は、有効成分化合物を単位服用量当り約0.2~1 6 I.U. 含有するのが適当である。組成物が既に投与に準備されへである場合には、全体として組成物にとれるの活性成分の濃度は大きい制限内、たとえばのの活性成分の重量がたとえば希釈を要するる。組成物がたとえば希釈を要する場合は、必要な方法たとえば希釈でした後、組成物が次いで活性成分を前記濃度会有するのが適当である。

次の実施例は本発明を説明する。

思者16人のうち、15人をLys⁸ ーパゾプレッシンで28日間処置した。一つの症例は、ひどい不眠症のために7日で処置を中止しなければならなかつた。薬剤は鼻腔スプレー〔ジアピッド(Diapid^R)として一つの鼻腔に一日1~6回Lys⁸ーパゾプレッシン約7.5~45 I.U.を投与した。すなわち、患者12人には最大毎日服用量は3スプ

an

のうち12人がそれらの前処置に不満足な応答を有し、これらの12症例のうち5症例でLys⁸-バ ゾプレッシンが良好または非常に良好な治療効果 を有したことに注目されねばならない。最後に第 Ⅲ表は、患者4人で、観察された改善が病院から の退院を許すのに十分であつたことを示す。

実施例I

Lys⁸- パソプレッシン (化合物 b))での臨床実験: -

臨床実験を前記方法に従って行った。16人の 被検者、女性10人および男性6人、年令33~ 63才が実験に参加した。患者14人は痴呆の慢 性精神分裂症であり他の2人は妄想および幻覚を 持つた慢性精神分裂症であった。基礎的データを 次の第1表に示す。 レー(約22.5 I.U.)、患者1人は2スプレー(約15 I.U.)で最後の患者2人はそれぞれ一日4 および6スプレーを受けた。

耐性に関しては調べたパラメータ(心電図、実験室試験、脈拍、血圧、体重、尿の排出量)の何れにも有意な統計的または臨床的変化はなかつた。

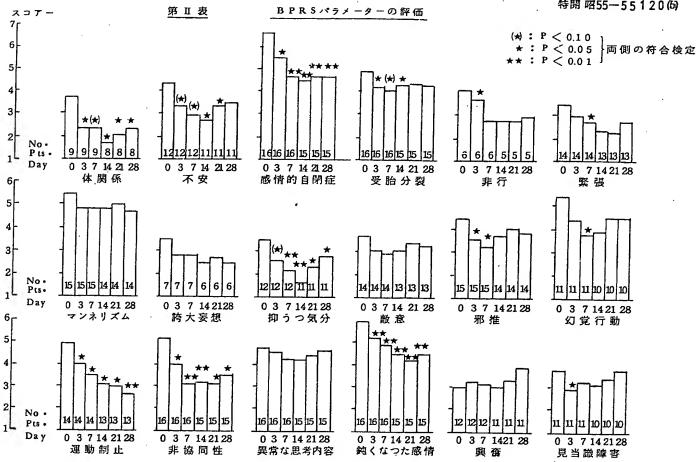
次の第Ⅱ表の図は、種々のBPRSパラメーターにおける平均評価を示し、症候を有する患者のみを包含する。両側の符号検定は調査したパラメーター中の変化の統計的意義を示す。パラメーター「興奮」で、痴呆への傾向があることが注目されたが、これは不眠症のための一症例における治療の中止に帰せられてよい。第Ⅱ表の結果はまた作用の迅速な開始期を示す。

次の第Ⅲ表には最終全評価ならびに前薬剤処置との比較を示す。 3 症例では、結果は非常に良好、 5 症例では良好、 6 例では不十分および失敗と評価した。前処置と比較した場合、Lys⁸- バゾブレッシンは8 症例で優秀、 5 症例で同等の効力があり、 3 症例で効力が少いと評価した。患者 1 6人

(12)

第Ⅰ表

		— т		
症例 番号	年令	性	診断	最初の発 作の年令
1	4 3	女	慢性精神分裂症 +痴呆	18
2	3 3	女	"	18
3	61	女	"	21
4	5 3	女	"	27
5	6 1	男	慢性精神分裂症 +妄想または幻覚	30-35
6	5 3	男.	慢性精神分裂症 +痴呆	15
7	49	男	慢性精神分裂症 +妄想または幻覚	20
8	4 1	·男	慢性精神分裂症 +痴呆	16
9	6 3	男	"	30
10	5 7	男	"	31
11	6 1	女	"	23
1 2	6 0	女	"	29
1 3	3 6	女	"	22
1 4	4 7	女	"	46
15	40	女	"	23
16	5 6	女	"	22



第Ⅲ表 終 全 評 価

		·	·	
	症例	以前の処置	以前の処置	Lys8-バゾブレツ
	番号 公前の処置		の評価	シン処置の評価
	1	N	(+)	+
	2	N	(+)	(+)
	3	N	(+)	(+)
	4	N	O	(+)
	5	N	+	++ (Dis)
	6	N	(+)	(+)
	7	N	(+)	0
	8	N	(+)	(+)
	9	N	+	0
	10	N	(+)	(+)
	11	N	(+)	++ (Dis)
	12	N .	+	+
	13	N	+	++ (Dis)
	14	N + AD	(+)	+
i	15	N	(+)	+ (Dis)
	16	N	(+)	+

ÚS

N=神経弛緩剤; AD=抗うつ剤

0 = 失敗

(+)=不十分

+ = 良好

++=非常に良好・

Dis=病院から退院

次の実施例 本試験で著しい改善を示した3人 の患者の病歴を記載する。

実施例2

61才のX氏は小学校の教育しか受けていなか つた。30~35才で彼は行動の異常性、特に自 閉する傾向を示した。その時彼はまたアルコール を濫用した。その後46才の時、明らかに理由も なく友人を殺した。次いで彼は州立病院に15年 間枸留された。彼は次いで私立病院に移されたが、 引続き法的監視下にあつた。

Ly s⁸- パゾプレツン試験前、トランキライザー で処置を中止した後、患者は幻覚および偏執病様 妄想および他人に対する激しい行動を有する偏執 病様の精神分裂症の病像を示した。患者はまた著 しい公共施設収容:無関心、非常に不十分な衛正 および自己配慮、不活動を示した。 Lys®- パゾブ レツシン処置をはじめてから数日内に、この患者 は別人となつた:洗顔し、ひげをそることができ るようになり、彼は感情は良好で医員、他の患者

および彼の家族との対人関係が良好であると報告された。彼の改善は法的拘留のない退院をすることができたであろう。処置は、試験のプロトコールで必要とする28日で中止した。11日後、患者は幻覚と攻撃的な行動で再発した。以前のトランキライザー療法を再導入したが Lys⁸- バゾブレッシン療法を後に再び始めた。

実施例3

症例13

3 6才のY嬢: 痴呆の長期の慢性の精神分裂症。障害の背景(無学な下層階級 - 初老の父)、小学教育だけ。大家族で、一人の妹はてんかん性で二番人の妹もまた精神病性であつた。これの時に入院した。その後の経過は潜行性の階段的時に入院した。なりまなど)は、多数の保事場で見いる。なり、まずで発力に、家族関係はは非常に相反する。な情で発力た。多くの場合、この患者は彼女の親

(18)

性の退行」の印象がある。

Lys⁸- パゾプレッシンでの処置を中止した後、 患者は適当な社会の支持をもつて病院から退院した。

実施例4

症例11

61才の婦人では緊張性精神分裂症で23才の時にはじめて入院した。その後、退院の試みを繰返して失敗し彼女の一生の殆んどを精神病院で過ごした。彼女はすべての種類の処置(インシュリン昏睡、電気ショック、トランキライザー)を受けたが満足な応答はなかつた。

現在のバゾプレッシンの試験の前は、患者は拒 絶症的であり、かなりの精神運動制止を示し、ほ とんど全く感情的にひつこめていた。臨床的病像 および表現は椅子の上のミイラの外観を思い出さ せた。

Lys⁸-バゾプレッシンを始めて一週間以内に驚くべき改善がなされ、良好な対人関係、人生および作業療法、レジャ活動などへ興味の復帰を示し

への依存関係をブレイクすることを試みたが失敗した(攻撃は抑圧された)。最近神経弛緩療法(クロザピン)をかなり良好な結果で導入した。この薬剤は錐体外路の副作用がないので都合よく配蔵された。この患者は22才からその人生の半分以上を精神病院で過した。彼女の現在の入院は、ひどい拒絶症および常同性思考で、時々神秘的な妄想(彼女は十字架を持つて寝た)で、病院の活動とは関係なしに1年以上前にはじまつた。

Ly**⁸-バソプレッシン療法を開始して(2日)、 患者は著しい分裂の特徴なしに家族の問題を声に 出した。患者彼女自身が可動性を与えてくれることを頼み、彼女は作業療法部門に行き、直ちにそ こでよく作業を行った。この興奮性効果は妄想の 再発(彼女が過去の改善で起つたような)なく「 良質」のものであった。現在の臨床的病像(病歴 を無視しうるならば)は思春期後の少女における 家族問題についての人格反応を思いおこさせるも のである。このように実在定位は不十分であるが、 不健全前の人格に向って戻る意味において、「陽

09

た。

その改着は処置を停止するまで(28日)続き、めざましい変化を考慮して患者の退院を決定し、彼女はすばらしい状態で家族のもとに帰つた。しかしながら、2ケ月後、患者は病院に再入院し、再び Ly s⁸- バゾプレッシンで処置し、同様な結果を得た。退院を今や再び考慮中である。

本発明に用いた代表的な処方は次のものを含む。

Lys ⁸ - パゾプレツシン	50 I.U
ニパコムピン (Ni paKomb i n)*	0.00068
クロロブタノール	0.0 0 1 <i>\$</i>
無水燐酸水素 2 ナトリウム	0.0 0 1 9 %
無水クエン酸	0.002568
塩化ナトリウム	0.0 0 5 %
グリセリン	0.0 2 5 8
ソルピトール(70重量 %)	0.0 2 5 %
水	1 加まで

※p-ヒドロキシ安息香酸エチルのナトリウム塩。